

駒沢女子大学 観光ゼミでの講義

駒沢女子大学の観光文化ゼミにて、株式会社JALスカイ札幌、長沼町役場が講演をしました。生徒が「若者が訪れるまちづくり」をテーマとした課題に取り組むために、長沼町における地域振興課題や過去の産学連携事例、JALスカイ札幌との取り組みについて紹介しました。その後の授業で、生徒は長沼町の課題を解決するための観光ツアーの企画を行いました。

【講義実施授業概要】

授業名 観光マーケティングの基礎③
JALスカイ札幌・長沼町の提示
開催者 駒沢女子大学観光文化学類 本間准専任講師
日程 令和4年5月25日（水）13：00～14：30
参加者 学生 11名
JALスカイ札幌地域活性化事業室 室長 河合氏
じゃらんリサーチセンター 松本氏

【授業内容】

1. 事前課題のふりかえり
2. JALスカイ札幌 課題の提示
3. 長沼町 課題の提示
4. 授業レポートについて

【学生からの意見】

- ・私自身が免許を持っておらず、公共交通機関の有無は旅行先を決める重要な基準でもあるので、長沼町の公共交通に課題を感じた。
- ・立地の良さから観光客が宿泊しないことが課題だと思った。今後の授業で宿泊アクションにつながるマーケティングを考えたい。
- ・自然保護のボランティア需要があるということから、長沼町の観光に関連づけることができれば、さらに観光作業を盛り上げることができるのではないかと思った。

【じゃらんリサーチセンターからのコメント】

- ・自然や野生動物との共生を考えた旅行商品は世界的に見てもポテンシャルがある。旅行がまちづくり・環境保全につながる仕組みは、今後ニーズが出るはずなので、長沼町でも観光が寄付につながる仕組みづくりがあるとういのではないか。



事前課題レビュー：質問①

Q:阿部さん 総合振興計画にあったスマート農業というものは具体的にはどのようなものがあるのか気になりました。また、農業体験をした農家の方に実際にメリット・デメリットを伺ってみました。

A:長沼町 岡田さん

スマート農業とは、ロボットなどの機械技術や、ICT（情報通信技術）を効率化・省力化、生産性の向上などをはかる新たな農業のことを言います。

例えば、畑で作業するトラクターや水田で作業するコンバインなどをGPSを転にすることにより、人による運転で発生する刈りムラや細かい蛇行を無くし率的に作業ができるようになったり、水田に水を引くバルブの開閉を遠隔でコントロールする装置を導入して、1カ所ずつ自力で行っていたバルブ開閉作業を省力化した。

ただし、自動運転トラクタの導入には多額の費用がかかり、高精度GPSが必要となることから、導入状況には個人差や地域差が出ているところだ。

もう一点の農家の声については、長沼町に来る機会があれば農家さんに伺ってみたいと思います。

Copyright © Komazawa Women's University All rights Reserved. 11

Zoom ミーティング

長沼町 本間准 河合美和 じゃらんリサーチセンター 松本氏

JALスカイ札幌 事務局

長沼町における今後の取り組み例①

「着地型観光バスツアー」の実施
レスポンスシブル・ツーリズムへの取り組み

ツアー内容

- ・既存の資源を活かした観光
- ・地元タンチョウガイドによる解説
- ・長沼産農産物を活用した機内食風ランチを提供

地域資源に付加価値を付けた独自性のあるツアー
参加するお客様に意識や行動に責任を持ってもらうツアー